

とがち帯広F C

静岡市長杯

第44回清水チャンピオンズカップ報告書

大会結果

☆予選リーグ

- 第1試合 とがち帯広F C 0-7 バディーサッカークラブ（神奈川県）
- 第2試合 とがち帯広F C 2-2 清水トレセンホワイト（静岡県）
- 第3試合 とがち帯広F C 2-1 吹田クラブ（大阪府）

2位トーナメントへ

☆2位トーナメント

- 第1回戦 とがち帯広F C 2-2 PK (3-1) 春日サッカクラブ（新潟県）
- 準決勝 とがち帯広F C 2-4 F C浜須賀（神奈川県）
- 3位決定戦 とがち帯広F C 1-3 尾上SC（青森県）

参加32チーム中 第12位

2016. 12. 23~25

清水ナショナルトレーニングセンター他

報告者 十勝少年サッカー連盟広報情報委員長 喜多 進

貴重な経験を積んできました

十勝少年サッカー連盟 喜多 進

この清水チャンピオンズカップは、全国各地の大会で優秀な成績を収めたチームが、サッカーどころの清水に集い、その年の真のチャンピオンを目指す大会として定着している名誉と権威のある大会です。我々「とちかち帯広FC」は、大会実行委員会の推薦も含めて今回で14年連続の出場となりました。

今年度の十勝トレセンの活動は、8月の台風被害の影響で練習会場が制限されました。また、例年よりも早い積雪のために、11月の初旬から屋外でのトレーニングができなくなるなど、厳しい環境の中でのシーズンとなりました。毎年言えることですが、室内でのトレーニングとなり、広いピッチでのフィジカル面やコンタクトプレー、試合運びなど、不安と期待が入り混じる中での大会参加となりました。

さて、大会の結果ですが、今年度は32チーム中12位という成績でした。一昨年の優勝、そして昨年の3位という成績に比べるとやや物足りなさを感じるかもしれませんが、この大会に参加している32チームは、どのチームも全国の強豪です。公式戦全6試合、十勝イレブンは果敢に立ち向かい、熱戦を繰り広げてくれました。

約2か月近く屋外でのトレーニングから遠ざかっていたわけですが、そのハンデを乗り越え、広いグラウンドでサッカーができるという喜びを、高いモチベーションに変えてくれた選手たちのたくましさを誇りに思います。

チームとしては、まだまだ経験不足で、もったいない失点も多く見られましたが、ここ数年十勝トレセンが取り組んできた「個の育成」という部分では、全国レベルでも十分に通用する選手が見られました。また、来シーズン、十勝のサッカー少年と十勝の指導者の皆さんと力を合わせて、新たな一步を踏み出していきたいと思っています。

なお、今年の大会も、地元船越サッカー少年団の関係者の皆さん、旅館日本閣さんをはじめ、多くの方々にたいへんあたたかい歓迎を受け、充実した遠征となりました。

少年トレセンの最終段階として、この時期に全国の強豪チームと多くの試合ができるこの大会は、我々にとって本当に大きな財産となっています。ここで得た経験、熱い思いを選手、スタッフ忘れることなく、次のステップに活かしてほしいと願っています。

終わりにになりましたが、この遠征に際しまして、十勝地区サッカー協会はじめ、十勝少年サッカー連盟、各単位少年団関係者の皆様方、そして保護者の皆様には、多大なご支援とご協力をいただき心より感謝申し上げます。

今回も、貴重な経験を積むことができました。今後も、十勝地区のレベルが高まるようスタッフ一同努力いたしますので、今まで以上のご指導、ご協力をお願いいたします。

簡単ではありますが、イレブンの健闘ぶりをまとめましたのでお読みください。

12月23日（金）

☆予選リーグ第1試合 とちぎ帯広FC 0-7 バディーサッカークラブ（神奈川県）

関東少年サッカー大会で優勝した強豪中の強豪、バディーとの戦い。前日予定していた練習試合が雨の影響でできなくなり、ぶっつけ本番で初戦に臨む。強豪相手には、立ち上がりが大切と伝えるも、試合開始早々からバディーの猛攻撃を受ける。GKを有効に使ってボールを回すバディーに、1対1の対応が遅れ、2分にミドルシュートを決められる。勢いに乗ったバディーに11分までに4点を奪われる。とちぎも、8番、9番、6番を中心に攻撃を仕かけるがなかなか相手ゴールまでボールを運べない。その後も攻め込まれる場面が続くが、1番の好守備と的確なコーチングもあり失点を許さない。

後半、システムを変えて挑む。2番からパスを受けた9番がシュートするもGK正面へ。後半の立ち上がりは明らかに十勝ペースで進む。惜しいチャンスを何度か作るが得点を奪えない。その後は、ゴール前でのクリアミス、CKでのマークのずれなどから失点を重ねる。とちぎも5番、11番がシュートチャンスを作るが0-7で敗れる。

この試合、早い段階での失点がその後の試合展開に大きく影響した。バディーは、確かに強かったわけだが、失点差ほど力の差はなかったはずだ。まだ、始まったばかり。この敗戦から学んだことを2戦目以降に生かそう。

☆予選リーグ第2試合 とちぎ帯広FC 2-2 清水トレセンホワイト（静岡県）

とちぎは初戦とメンバーを数名入れ替える。そのフレッシュな選手たちを中心に、アグレッシブにボールを奪いに行く。試合の立ち上がりから果敢に攻め込むとちぎは11番、9番を中心に相手ゴールに迫る。3番もミドルシュートを放ちペースをつかむかに思われた2分、一瞬のすきを突かれGKとの1対1の場面を作られ先制点を奪われる。4分、とちぎは9番→11番→9番とつなぎ同点に追いつく。その後も8番の惜しいシュートなど、前半はやや押し気味で試合を進める。20番の攻守も光った前半の戦いだった。

後半に入ってから互角の展開が続く。ピンチには20番が体を張ったプレーでゴールを死守する。10分、守備の人数はそろっていたのだが、マークが甘くフリーでシュートを打たせて失点する。12分、とちぎは7番が左サイドからドリブルで仕かけシュートを放つ。これが相手に当たりコースが変わってゴールに吸い込まれ同点に追いつく。終了間際には、5番のセンターリングを受けた15番がシュートを打つもゴールは奪えない。結局試合は2-2のまま同点で終了する。

この試合、人数を増やしながらいい形で攻撃をすることができた。一方、ボールを奪った後のパスの精度や、守備のコミュニケーションには課題が残った。

12月24日（土）

☆予選リーグ第3試合 とちぎ帯広FC 2-1 吹田クラブ（大阪府）

初戦で大量失点をしたとちぎであったが、この試合で2点差をつけて勝利すれば、予選リーグ2位通過となる。一方負ければリーグ4位となるため、選手もベンチも試合前から

かなり気合が入っていた。

立ち上がりから動きのいいとかちは、鋭いインターセプトをした2番からパスを受けた8番がシュートを打つも、惜しくもバーの上を超す。ボールを支配するとかちは、8分、CKのチャンスに5番の蹴ったボールを8番が頭で合わせて先取点を奪う。14分、10番の蹴ったFKは惜しくもクロスバーをたたく。

後半2分、ボールを失ったところからゴールを決められる。その後、8番が右サイドで粘って奪ったボールを6番に合わせるが、惜しくもゴールならず。11番のクロスボールを5番が頭で合わせるなどチャンスを作るが得点を奪えない。15分、7番→11番とつないだボールを5番がきっちりとゴール右に決め勝ち越す。もう1点が欲しいとかちは、最後まで相手ゴールへ迫るも、試合終了のホイッスルが鳴る。

この時点で、得失点差で並んだものの総得点で下回るとかちは3位トーナメントへ…。

が、その後、大会本部から前の試合の結果に誤りがあったことが伝えられ、得失点差1上回り、2位トーナメントに進むことが判明する。

☆2位トーナメント1回戦 とかち帯広FC 2-2 PK(3-1) 春日(新潟県)

勝てば最終日に2試合でき、負ければ1試合となる大事な試合であったが、動きのいい相手に押される場面が続く。ボールがなかなか収まらず、パスもつながらない我慢の時間が続く。6分、4番→11番→13番とボールが動き、11番がシュートするも相手GKの攻守備にはばまれる。試合中盤、とかちは10番にボールを集め攻撃を仕かける。守備でも15番の体を張ったプレーなど徐々に動きが良くなっていく。11分、FKのチャンスに10番のキックを13番が見事に頭で合わせ先取点を奪う。18分、人数はいるのにフリーな選手を作ってしまう同点に追いつかれる。この大会で何度も見た光景だ。

後半に入っても単純なパスミスが続くとかちであったが、残り10分から連続して攻撃を仕かける。2番の積極的な攻撃参加、12番のすばらしいコントロールから13番につないでシュート、5番→7番→5番とボールが動き、最後は4番が詰めるもあと1歩届かず。15分、CKのチャンスから7番がシュート、こぼれたところを12番がしっかりと詰め勝ち越し点を奪う。その直後、逆にCKから同点に追いつかれ、PK戦に突入する。とかちは、志願した5番、8番、2番がきっちりと決め3-1で勝利する。

12月25日(日)

☆2位トーナメント準決勝 とかち帯広FC 2-4 FC浜須賀(神奈川県)

昨日の頑張りで、最終日は2位トーナメントで2試合できることになった。そして、この日の2試合は、自分たちでシステム、ポジションを決めることになった。

試合開始早々、12番からロングパスを受けた11番が、6番につなぎ先制点を奪う。見事な攻撃だった。その後も12番、3番の思い切りの良い攻撃参加からチャンスを作る。試合序盤はとかちペースで進む。9分、相手のシュートがDFの手に当たり不運なPKを取られ1-1となる。その直後、自陣ゴール前でのピンチから6番→11番とつなぎ、相

手GKと1対1になった11番が、GKの位置をしっかりと見てループシュートを決め勝ち越す。その後もスピードのある相手選手に対し、14番、12番が体を張ったプレーでピンチを防ぐ。しかし17分、右サイドを突破され、カバーが遅れ同点に追いつかれる。

後半1分、FKのチャンスから15番がシュートを打ち、勢いに乗るかと思われたとかちであったが、5分、FKを頭で合わされて逆転を許す。何とか同点に追いつきたいとかちであったが、バランスを崩しての攻撃が多くなり、空いたスペースを使われピンチを迎える。11分、相手チームの中心選手に追加点を奪われる。16分、8番がドリブルで仕かけシュートを打つも惜しくもGK正面。最後まであきらめずにゴールに迫るが、残念ながら2-4で敗れる。

☆2位トーナメント3位決定戦

とかち帯広FC 1-3 尾上SC（青森県）

2位トーナメントの3位決定戦は、尾上SCとの対戦になった。東北大会3位のフィジカルが強いチーム。静岡清水での最後の試合、やり切ってほしい。

試合開始早々、右サイドを突破されシュートを打たれる。GKが良く反応したものの、はじいたボールを詰められ先制点を奪われる。とかちは13番から3番とつなぎミドルシュートを狙う。その後もピンチを迎えるが7番、14番、15番が体を張ったプレーでゴールは許さない。10分、7番のFKから相手ゴール前でチャンスを作るが決めきれず。12分、マークを外して2-0とされる。せっかくボールを奪っても、パスがずれたり、相手に当たったりする場面が続く。

後半、勢いよく入ったメンバー。2分、見事なインターセプトから右サイドをドリブル突破した2番が、ゴール前で詰めていた11番にしっかりと合わせ1-2とする。その後も、2番→5番→10番とつなぎチャンスを作る。とかちペースになりつつあった6分、アプローチが遅れたところを突かれ追加点を奪われる。10分、1番からのボールを6番が良く反応しシュートを打つも、惜しくも相手に当たる。試合終盤には、連続CKから相手ゴールに迫るも、ゴールをこじ開けることができないまま試合終了。

毎年、全国のトップレベルのチームと交流できるチャンスをいただいています。この時期に、このような素晴らしい経験ができることは、選手のみならず、トレセンスタッフにとっても大きな財産となっています。

今回の大会でも、強いチームは、人数をかけてどんどんボールを奪いにきます。判断が遅れると一瞬にして囲まれボールを失うこととなります。ハイプレッシャーの中でも戦うことができる技術力と判断力が今まで以上に求められます。十勝の子どもたちに、どのようなトレーニングが有効なのか、更に考えていかななくてはなりません。

今後も、トレセン活動の大きなねらいが「個の育成」であることを忘れずに、スタッフ一同、各チームの指導者の皆さんと共に地区全体の底上げ図っていきたいと思います。

参加した選手の皆さん、スタッフの皆さんご苦労さまでした。

16名の選手へのコメント

- ①ゴール前での堂々たる姿は守護神としての風格を感じさせました。また、一試合を通してコーチングを続ける集中力にも目を見張ります。フィールドプレイヤーにも引けを取らない足元の技術を生かしてより効果的に攻撃に関わり、キャッチングのスキルに磨きをかけて攻守に渡って更なる存在感を出していきましょう。
- ②インターセプトの意識が高く、1対1の強さは卓越していました。試合を重ねるごとにオフのポジショニングの質が高まり、自分のマークへの対応だけでなく味方のカバーリングができる立ち位置を獲得しながら成長していく姿に頼もしさを感じました。奪った後、またボールを保持しているときの判断に磨きをかけてほしいと思います。
- ③攻守に渡る安定したプレーでチームを支えてくれました。自分のスピード、テクニックに自信を持ち、より積極的な攻撃参加と多少の傲慢さを持つことでより相手の脅威となれることでしょう。ケガに十分気を付けながら、常に最高のパフォーマンスができるように準備をしていきましょう。
- ④守備における1対1の強さは目を見張りましたし、攻撃参加の意識も高く持っていました。ボールを保持した際には、利き足だけでなく苦手な足でのプレーにトライし、自分のプレーの幅を広げていきましょう。左右の足を使えることが、より適切な判断へと導いてくれます。
- ⑤持ち前のスピードと積極性、そしてピッチでもベンチでも全体に響くコーチングでチームを盛り上げ、副キャプテンとしての役目を十二分に果たしました。強い相手に対しても状況に応じた予測と駆け引きで上回り、より自分のスピードを活かせるようにしていきます。
- ⑥守備において、相手ボール保持者の状況を観て適切に対応し、駆け引きの巧さ・センスを感じさせました。攻撃では積極的な仕掛けが相手の脅威となっていました。大きな相手にも負けないよう、より予測と駆け引きに磨きをかけていきましょう。
- ⑦持ち前のテクニックで左サイドまたは左から中央へとピッチを切り裂き、何度もチャンスメイクしてくれました。守備では試合を重ねるごとにカバーリングの意識が高まり、攻守に渡って貢献しました。攻守におけるオフのポジショニング、出るか出ないかの判断に更なる磨きをかけていきましょう。
- ⑧前線からの献身的にボールを追いつける守備は、全試合通じて輝いていました。チームに貢献するという熱い思いと、ゴールを決めるという強い意志を大切にしながら、シュートスキルに磨きをかけて、これまで以上に相手の脅威となるストライカーを目指してください。
- ⑨一試合を走り切ろうとする気持ちとケガに耐えながら戦い抜く強いメンタルでチームを引っ張りました。ミドルレンジからのシュートの意識の高さも相手の脅威となりました。前への推進力を大事にしながら、ボールをコントロールし続けられるドリブルスピードを習得して、状況に応じてプレーを使い分けることができるようにしていきます。

- ⑩主将としてオフ・ザ・ピッチでは誠実さと見通しを持った行動でチームを支え、ピッチでは相手の虚を衝くパスやシュートでチームを牽引しました。スタミナとパワーを身につけ、一試合を通して最高のパフォーマンスを続けられるようにしていきましょう。
- ⑪ゴール前では左右の足で精度の高いシュートを放ち、春日戦では遊び心のあるループシュートを決め、ストライカーとしてのセンスを感じさせました。更なるハードワークでより相手に恐れられる存在となってください。
- ⑫持ち前のパワーは他を圧倒していました。慣れないポジションでも一生懸命にプレーする姿がチームメイトの信頼を寄せていました。ボール状況に応じたオフのポジショニング・動きの質を高め、また、一試合を走り切れるスタミナが付けば、チームの中心として存分に力を発揮することができるようになるでしょう。
- ⑬テクニックを活かし、ハイプレッシャーの中でも局面を打開するターンが輝きを放っていました。勝利への強い気持ちはチームに勢いを与え、春日戦では見事なヘディングシュートを決めました。優先順位を意識しながら前後左右に選択肢を持つことで、より時間を作れる選手へと成長できることでしょう。
- ⑭浮いたボールも強いボールも確実にコントロールするボールフィーリングは群を抜いていました。コントロールした後のプレイメージと選択肢を広げ、競り合いを避けることも考えながら、同時に「食」を通じた身体づくりを続けることも大切にしていきましょう。
- ⑮1試合ごとにたくましくなりました。守備での1対1の強さは何度もチームに流れを引き寄せました。スピード・パワー・キック力・ロングスローなどたくさんの武器を存分に生かせるよう、オフの質（予測・ポジショニング）を高めていきましょう。
- ⑯圧倒的なセービング力で何度もチームのピンチを救ってくれました。ピッチ全体の状況を観ながら、ビルドアップ・ロングフィードを使い分け、攻守に渡って大きく貢献しました。足元の技術にさらなる磨きをかけ、自分の判断を高い精度で実現するテクニックを身に付けていきましょう。

文責 牛木